

# 令和6年度 学校評価報告書

長崎市立長崎商業高等学校

## 1 教育目標

人格の完成をめざし、教養豊かで有為な産業人を育成する。

## 2 学校経営方針

- (1) 真理と平和を愛する態度を育み、友愛互助の精神を涵養する。
- (2) よりよき社会人として、責任を重んじ知性と教養を高める気風を養う。
- (3) 産業人として基本的な資質の向上に努めるとともに、社会の一員としてその発展に貢献する態度を養成する。
- (4) 国際的視野に立つ調和のとれた社会性と心豊かな人間性の育成に努める。

## 3 重点目標

- (1) よりよき社会人として、知・徳・体のバランスのとれた人材育成を目指す。
- (2) 大学・専門学校・行政・一般企業などと連携を深め、特色ある進路実現を目指す。
- (3) 学校・保護者・同窓会・地域が一体となった教育活動の展開と広報活動の充実を図る。
- (4) 働きやすい職場環境づくりの推進を図り、教職員の同僚性を高める。
- (5) 校務の効率化と情報セキュリティ対策の推進を図る。

## 4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果 (肯定的割合・%)			分析及び改善策
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91	93		学校評価(中間・最終)を通して、教育目標の確認や教科・分掌・学年目標のチェックを行っている。学校評議員会での意見を参考に、職員会議等で目標達成への努力を求めた。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	99	98	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			82	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			76	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	99	97	80	挨拶・マナーアップ運動や容儀指導を実施し、規範意識の向上と将来の社会生活を目指した生活指導を実施している。長商スマイルと挨拶の励行については、引き続き向上を図る。 アンケートを実施して生徒の実態を把握し、必要に応じて関係機関と連携しながら親身に対応している。 ウクライナ国花の「ひまわり」で生徒玄関を彩り、被爆体験者の講話を実施するなど、平和を願う気持ちを共有した。
		挨拶をよくしている	97	95	78	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	96	88	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	88	95	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	99	97	98	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	99	84	98	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	94	91	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	98	96	96	1年生で地域の多様な職種の事業者から学ぶ行事や2年生で地域を歩き再発見する行事、3年生で地域の歴史を学び、卓袱料理を体験する行事を実施した。地域の協力を得ながら関係機関との関わりを深め、郷土の未来を担う人材育成に繋げたい。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94	85	93	
		家庭学習の習慣が身に付いている	64	63	56	
		将来の自立に向けて適切に指導している	98	91	85	
	キャリア教育	長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	97			

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	97	92	96	本校では、換気や手洗い、マスク着用に加え、食事や睡眠の質向上を呼びかけながら、感染拡大防止に努めている。学校規模の割に、感染症罹患者や学級閉鎖を最小限に抑えることができた。体力の向上や食・栄養に関する知識向上が課題である。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	91	79	82	
		体力向上に努めている	81	73	96	
	食育	食に関する教育活動を行っている	85	82	82	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	98	93	96	バス通学者が8割で通学範囲も広い。台風や雪等の影響がある際は、早めの下校や臨時休業等の措置を講じ、安全確保に努めた。学校HPやメールメイト等を活用して、学校情報の積極的な発信に努めたが、中学生向けの内容充実が課題である。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	96	92	91	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	96	92	98	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			87	
教環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	98	93	96	校務事務支援システムの早期導入が実現すれば、更なる環境改善に繋がる。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			85	

## 5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

部活動では、ソフトボール女子が県高総体4連覇をはじめ、全国選抜大会出場権獲得した。ソフトテニス女子が県高総体個人で全国大会出場の他、陸上、商業クラブ、ワープロ、珠算、放送、美術の各種大会において上位大会(全国大会・九州大会)へ出場し、生徒の健全育成と学校活性化に好影響を与えた。放送部と美術部は、本年度に続き次年度の全国総文祭出場権を得ることができた。

### 【生徒アンケート結果】

・学校行事への満足度が高く、学校が明るく楽しい雰囲気であると肯定的な意見が99%である。家庭学習への取り組みの意識の向上、食事と睡眠の質向上、体力の向上が課題である。

### 【保護者アンケート結果】

・資格取得や部活動の充実、長商へ入学させたことについて、保護者の評価が高かった。  
・家庭学習習慣についての評価が低く、取り組みの改善が必要である。

## 6 学校関係者評価

・時代に合わせた校則の見直しやスマートフォンの校内持ち込み(持ち込ませて指導していく方向)について検討が必要である。  
・職員アンケート(最終)の中間比低下の数が多いために気がなる。対策が必要である。  
・入試倍率が1.0を切った。入試制度の変更も大きいですが、学校としての対策案を講じて、市教委と連携しながら入学希望者が増えることを期待します。  
・家庭学習の取組や読書週間、体力向上は、中学校でも課題となっている。授業等を通して、これらの向上に繋がるような取り組みが必要である。  
・項目別評価表は細かく設定されており、各分掌や学年、教科等がその目標をクリアするように取り組まれており参考になる。しかし、項目が多いため目標が多くなるので、目標が充分達成されている項目は継続確認程度とし、課題となっている目標に絞った方が取り組みやすいのではないのでしょうか。

## 7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

・携帯電話への依存が高まるにつれて、家庭学習時間や睡眠時間が確保されない傾向にある。また、SNSに関係するトラブルも懸念される。学校と家庭で連携を密にししながら、学校や家庭でのルールと生徒にとって有益な使い方について、入学時やPTA総会、保護者面談等で説明し共有していく。また、社会の変化に応じて、校則の見直しや携帯電話の学校持ち込みとその指導について協議していく。  
・学習や部活動、学校行事に主体的に取り組むことができるように、食事や睡眠の質を向上し、体力向上や健康管理に関する意識を高めていくことが求められる。  
・学科改編後の特色ある活動や新たな取り組みについて、地域や関係機関と連携しながら磨き上げていくとともに、高校入試志願者の志願倍率増に繋がる授業改善や関係機関との連携、積極的な広報活動を組織的に行っていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。